

子どもの運動能力や努力をほめることが 達成目標やパフォーマンスに及ぼす影響

関山 毅 (福岡教育大学大学院)

1. 目的

本研究の目的は、子どもの運動指導の場面において、指導者が能力あるいは努力をほめることが子どもの達成目標やパフォーマンスに及ぼす影響を検討し、どのような賞賛が子どもに有効であるかを明らかにすることを目的とした。

2. 方法

- 1) 対象者 : 小学6年生 81名とした。
- 2) 調査方法 : 陸上運動のハードル走の授業において、40m ハードル走の記録についてカードを用いたフィードバックを行った。その際、そのカードに努力をほめる群、能力をほめる群、何もほめない群の3群を設定して、各群間でその後の達成目標(藤田, 2017)と40m ハードル走の記録を比較した。
- 3) 分析方法 : 授業実践を通して、単元前後の達成目標志向性の変化を検討するために、群と時期を独立変数とし、達成目標志向性の下位尺度を従属変数とした2要因分散分析を行った。また、40m ハードル走では、1回目の記録を共変量とし、群を独立変数、3回目の記録を従属変数とした共分散分析を行った。

3. 結果と考察

1) 達成目標志向性の変化

「熟達志向」は、群と時期の交互作用が1%水準で有意 ($F(2,78)=7.08, p<.01$) であった。その後、単純主効果の検定を行った結果、単元後において努力をほめられた群は、能力をほめられた群に比べて得点が有意に高い結果となった。一方の「成績志向」では、交互作用及び群と時期の主効果は有意ではなかった。

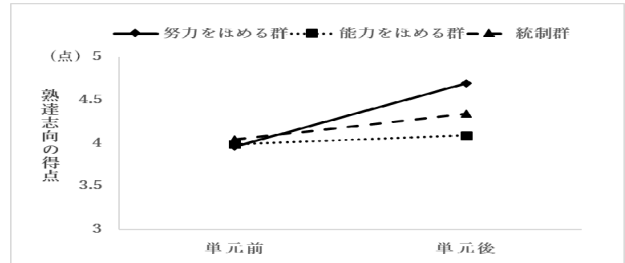


図1 単元前後における熟達志向の変化

2) 40m ハードル走の成績推移

当初群の間で有意差がなかった3回目の記録の平均値について、単元前のハードル走の実力を取り除いた推定平均値と比較したところ、有意な差は見られなかった。

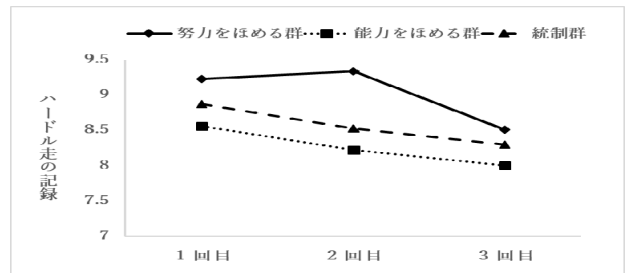


図2 40m ハードル走の成績推移

4. 結論

本研究では、子どもの運動指導の場面において、運動能力や努力をほめることが達成目標やパフォーマンスに及ぼす明確な影響は確かめられなかった。今後は、本研究の課題を考慮して、子どもの運動指導において、運動能力や努力をほめることが達成目標やパフォーマンスに及ぼす影響について検討していくことが重要になる。

5. 参考文献

- 1) 藤田勉 (2017) 小学校体育授業における達成目標志向性と学業的援助要請の関係, 九州地区国立大学教育系・文系研究論文集.